

# 平成26年度 事業報告書

学校法人 夙川学院



# I. 事業の概要

## 1. 学校法人夙川学院建学の精神

夙川学院は、明治13年(西暦1880年)、御影弓場の地に故 増谷かめによって創設された裁縫塾を母体としています。

当時は女子の教育についての関心が低かったのですが、かめは、女子教育の必要性を痛感し、『婦徳の高い、堅実な家庭婦人の養成』を目指し、裁縫塾を創設したのです。以後、校名は変遷しつつも確実に発展をとげてきましたが、本校教育の一大転換期となったのは、やはり終戦後、御影魚崎の地から、ここ西宮夙川の地に移転した時です。校名を増谷高等女学校から夙川学院中学・高等学校と改称し、学校教育の基礎となる教育精神をキリスト教に求め、キリスト教精神を柱として新たなスタートを切ったことです。

現在、幼稚園・中学・高校・短期大学さらには大学を併せもつ総合教育機関となりました。その間、建学の精神の主たるところである『徳のある人間を育成する』という精神は現在の組織に脈々と受継がれています。

教育の目指すところは、共通して「知」「徳」「体」すべてにバランスのとれた全人教育となります。またグローバル化した現代社会では、国際感覚を持った人間の育成ということも重要です。本学院はキリスト教精神をベースに、それぞれの組織がそれぞれの特徴を最大限生かしながら上記の目標達成に邁進しています。

### (1) 法人

平成26年12月12日付の理事会において、平成28年4月1日に夙川学院高等学校・中学校をポートアイランドキャンパスに移転させることが決議されました。

### (2) 神戸夙川学院大学

神戸夙川学院大学は、観光立国の機運が高まる

中、国際都市神戸にあるポートアイランドにキャンパスを構え、平成19年度に開学しましたが、入学者数の減少により収支状況が悪化したことに鑑み、神戸夙川学院大学が将来にわたり教育研究を継続することは困難であると判断し、全学部・学科において平成27年度以降の学生募集停止を行いました。その後、学校法人神戸山手学園が設置する神戸山手大学との間で、神戸夙川学院大学の在学生のうち、平成27年度の新2年生から新4年生と一定数の教職員を平成27年4月1日付で神戸山手大学において継承してもらうこととし、平成26年7月30日付で両校において合意書を締結しました。継承先となる神戸山手大学現代社会学部観光文化学科の開設については、平成26年8月29日付で文部科学省より認可が下りました。平成26年度中に全ての学生の学籍が異動し、在籍する学生数が0名となったため、神戸夙川学院大学を廃止します。学生、教職員の処遇は以下の通りです。

<学生>(平成26年4月20日在籍者)

神戸山手大学へ転学	404名
神戸山手大学以外の大学へ転学	29名
退学(除籍を含む)	78名
入学取消	5名
卒業	206名
計	722名

<教員>(平成26年5月1日在籍者)

神戸山手大学へ転籍	24名
自己退職	6名
学院内所属異動	2名
合意退職	3名
計	35名

<職員>(平成26年5月1日在籍者)

神戸山手大学へ転籍	4名
自己退職	2名
学院内所属異動	4名
合意退職	0名
計	10名

### (3) 夙川学院短期大学教育理念

夙川学院短期大学の建学の精神は、夙川学院の前身である増谷裁縫塾創始者の教育方針と戦後導入したキリスト教精神に基づく人格形成を反映したものであり、「愛と誠実・清新な学識」を教育理念としています。

夙川学院短期大学の教育方針は、学校法人夙川学院のキリスト教精神に基づく人格形成という建学の精神を柱として、「愛と誠実・清新な学識」の教育理念の下で、広い視野と自己表現力ならびに精神的自立につながる教育を行うというものです。具体的には、進展する国際化や情報化に対応し、幅広い知識と豊かな教養、洗練された技能、柔軟な思考力を養います。また、社会に貢献し、自己実現を図るために、個性を生かした専門的能力と表現力を身に付け、さらに、人権を尊重し、精神的に自立した人材を育成します。

なお、短期大学は、平成 25 年 4 月の神戸ポートアイランドキャンパスへの移転を契機に、男性にも保育者・教育者の道を開くべく、平成 25 年度入学生より「男女共学化」し、それに伴い平成 25 年度より「教育方針」の中の「女性」という文言を「人材」に変更しています。

### (4) 夙川学院高等学校教育理念

建学の精神にも見受けられるとおり、「実学を通して道を究める」ことが本学院の創立以来変わらない教育の姿勢です。

明治初期の日本社会が近代化を目指したときには、『徳を身に付けた近代女性の育成(良妻賢母)』、戦後の民主化の時代においては、『社会の変化に適応した自立した人格の育成』とその表現方法は異なりますが、根底に流れる“『徳を身に付けた人格の育成』”という本学の建学の精神は、130 年もの間変わることなく、中学・高等学校の教育方針に引き継がれています。

教育の普遍的な目的は人格の完成です。人格が完成されるためには、精神的・身体的・社会的な自立

が必要となります。“徳を身に付けた人格の育成”のため、本校では次のような具体的な教育の方針を掲げています。

#### ◆学力の向上と定着化

進んで学ぶ姿勢を養い、希望進路を確実なものにします。

#### ◆人間性の陶冶

家族愛や師弟愛等の日本人が持つ伝統文化の良さを見直し、女性らしい優しさを身に付けるため、学校内外の様々な場所や機会を通して教育活動を行っています。戦後は、特別礼拝等を通して、キリスト教の持つ博愛の精神を学び、愛と規律と責任を教えています。

#### ◆健全な心身の育成

“健全なる精神は健全なる身体に宿る”スポーツをはじめとする集団活動を通じて体力を増進し、協調と連帯の精神を養います。集団活動で得た、規律尊重の精神と礼儀正しさを日常生活にも生かせる折り目正しい人格と、いかなる境遇にも屈しない不撓不屈の心身を育成します。

#### ◆個性の伸張

普遍的な価値観のひとつである“個人の尊厳”を具現するため、それぞれの個性と適性を尊重し、一人一人の自己実現に向けて指導します。“共存”のできない社会生活はありえない、自己実現の達成により、内外の多様な人々との“共存”が可能になり、ひいては自他を尊重できる人格になります。

#### ◆国際感覚の育成

世界の人達と共存できる国際感覚豊かな人材を育成します。

### (5) 夙川学院中学校教育理念

中・高・短大・大学の一貫教育の3年間の重責を担い、宗教的情操と個人を尊重する心を涵養し、相互信頼のきずなを深めます。

充実した教育施設と小規模校の特徴を生かして、個々の可能性を伸ばし、あらゆる機会を通じて基礎学力の向上に努めます。

## (6) 夙川学院短期大学

### 付属幼稚園教育理念

明るい子ども、健やかな子ども、美しい心の子どもに育てます。

## 2. 教育力向上及び研究に係る事業

### ■短期大学

#### (1) 教育内容及びカリキュラムの内容

### ■短期大学

児童教育学科では、平成23年度入学生より、3年制であった保育士養成課程を2年制に変更しました。それにより、短期大学の2年間で小学校教諭免許、幼稚園教諭免許、保育士資格の3つの免許・資格が取得できるのは、兵庫県では本学のみとなりました。そのためか、平成23年度入学者数は、入学定員100名を上回る112名となりました。平成24年度入学生は、学院を取り巻く諸般の事情もあり、60名にとどまりましたが、平成25年度入学者数は、110名(内男子6名)、平成26年度は129名(内男子4名)と大幅に増加しました。

近年の経済情勢を反映して、経済状況から進学を断念する志望者や学費を貯蓄してから入学してくる学生もいることから、アルバイト等をしながら就学できる道を開くべく、平成27年度入学生より、長期履修制度(3年制)を導入します。これは2年分の授業料で短期大学を3年間で卒業する制度で、免許、資格の取得のためにアルバイトが困難な児童教育学科の負の特性に配慮したものです。また、斡旋業者を介して、保育園をアルバイト先として紹介することで、実践力を身につけた質の高い学生の養成が行えることにもなりました。併せて、この制度は重点クラブ(空手道部、吹奏楽部)の入学生にも適用し、特技を持った学生の養成として魅力あるものになっています。

近年の入学者数の増加傾向に加え、この長期履修制度の導入もあって、定員を平成27年度より170名にします。4大の募集停止の影響下でも、平成27年度は154名(内、男子12名、長期履修生28名(経済的理由

17名、空手道部5名、吹奏楽部6名))の入学者を迎えることができました(平成27年3月31日現在)。

なお、定員増と長期履修制度の導入にあたり、学生が履修しやすいように授業編成に検討を加えました。具体的には必修科目を中心に半期開講科目を前期と後期に開講することや「生活」や「算数」などを2回生から1回生に担当するようにしました。

3つの免許・資格取得のためもあり、平成23年度はカリキュラムの大幅な改革を行い、法令で定められている科目のみではなく、本学独自科目として「子ども学ゼミ」を開講し、在学生・受験生からも好評を得ています。これは、多彩な分野のユニットから自分の興味・関心のある分野を選び、さらにその技術を身につけることにより、自分の得意分野を生かすことのできる付加価値を有した教育者・保育者を育成することを目指したものです。他学にはない、1・2回生の合同ゼミ形式となっており、コミュニケーション力を含めて授業内容の充実、発展性を図り、赤ちゃんの心理をより深く学んだ保育者、児童英語を担当できる幼稚園や幼児教室の先生、スポーツジムの幼児向けインストラクター、自作の絵本を読み聞かせできる保育者など、就職の幅を広げることも期待しています。

免許取得に不可欠である「教育実習」は、事前事後指導を1回生から2年間開講し、1回生の観察・参加実習と2回生の本実習のための指導をきめ細かく行っています。教育実習は付属幼稚園や協力園との連携を図り実施し、実習後の事後指導では、実習園からの評価表を基に、教職への意識の向上を促すよう指導しています。

教養教育科目のスリム化を行い、児童教育学科的を絞り科目数をかなり削減しました。しかし、神戸ポートアイランド4大学連携単位互換制度、放送大学など、大学間交流には教員・学生ともに積極的に参加しているため、単位互換科目としての教養教育科目は維持しています。

また、キリスト教教育を本格的に導入することに伴い、キリスト教学A、キリスト教学Bを選択科目として教養教育科目に加えます。なお、学生に負担の大きか

った「教養ゼミ」を廃止し、これに代わる科目の設置に向けて検討を行っています。

#### <高大連携講座>

高大連携として、夙川学院高等学校普通科児童教育進学コースの本学への進学が決定した生徒を対象に、短期大学の先取り授業として、後期に教養教育科目1科目、専門教育科目1科目を本学教員が高校に出向いて授業を行い、入学後に単位が認定されるシステムがあります。平成26年度には6名の生徒が受講しました。

また、兵庫県立西宮甲山高等学校とも高大連携講座の提携をしており、平成26年度は、9月4日～11月20日までの毎週木曜日に同高等学校に教員が出向き、教育総合類型2年生を対象に児童教育に対する理解を深める講座を開きました。

## (2)FD(教育内容・資質向上)の取組

### ■短期大学

授業評価アンケートを年2回実施しており、アンケート結果ならびに授業担当者のコメントを学内で公表しました。

そして、研究紀要とは別に、FD委員会にて年1回、教育に関する実践を掲載した「教育実践研究紀要」を発行し、授業研究実践の成果を公表することとなりました。

また11月5日(水)、本学大会議室にて、神戸夙川学院大学と合同でFD研修会を開催しました。講師には佐藤浩章氏(大阪大学教育学習支援センター副センター長)をお迎えし、テーマは「カリキュラム・デザイン ワークショップ」でした。この研修会をきっかけに「3つのポリシー(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー)」の改革に取り組むことになりました。

## (3)キャリア教育・支援の推進

### ■短期大学

キャリア教育の重要性に鑑み、平成22年度入学よりキャリア教育科目をカリキュラムに取り入れ、

その内1科目を卒業必修科目に位置づけています。

1回生の前期に「キャリアプランニングの基礎」で自分らしく生きることや社会で働く意味を考え、保育士や幼稚園教諭、小学校教諭の職業について概観すると同時に基礎学力の強化対策も行いました。また後期には「キャリアスタディ A」を開講しキャリア教育に精通した外部講師および児童教育学科教員や学習支援担当者が「自己分析」「履歴書の書き方」さらに保育園、幼稚園就職を目指す学生の採用試験を想定した実践的な授業を行いました。そして平成26年度はさらに公務員試験対策強化のために、各科目に関しての公務員試験での頻出項目をピックアップして演習を行う「キャリアスタディ B」「キャリアスタディ C」を開講しました。また、いつでも受験勉強ができるように学習支援センターを設置しており、学生の要望に合わせて指導を行っています。

#### <園OG講演会>

幼稚園や保育園で働く本学卒業生に講演をしてもらったOG講演会は平成26年度には2回実施しました。それぞれ対象学生や講演のテーマは違うものの常に子どもと係わる仕事のすばらしさを伝える機会となり、学生たちにとって現場で働く先輩たちの生の声を聞くことにより自分たちの行動や授業への取組方を改めるきっかけになりました。



#### <清掃研修>

平成23年度から児童教育学科1回生を対象として教育実習前の学生に実施している清掃研修を26年度も実施しました。近年園訪問をすると雑巾を絞れない、ほうきを使うことができない保育者も増えて

いるとのことで、清掃業者に依頼し指導をしてもらいました。この研修により教育実習先の園からはとても丁寧に掃除ができたと評価を得ることができました。

#### ＜就職支援＞

キャリアセンター職員が学生の希望に応じて随時きめ細やかな支援を行っています。

また、キャリアセンター職員、および大学教員が就職先の園や施設を訪問し卒業生の現状把握に努め、今後の就職支援や求められる人材の理解と教育の向上に活かしています。

### (4) 付属施設の事業

#### ■短期大学

##### ◆図書館

大学図書館との合併により充実した設備・蔵書で、よりよい図書館環境を整備することができた結果、大学生、短大生が各自の専門分野になかった 観光・絵本関連の蔵書に互いに興味を見出す場面も多々見えました。また、例年実施している学生選書ツアーやビブリオバトル(※)にも短期大学の学生の参加が増加し、好評でした。

(※)参加者同士で本を紹介し合い、最も読みたいと思う本を投票で決める催し

##### ◆しゅくたん広場

西宮市からの委託事業として平成 21 年度学内に「しゅくたん広場」を開設し、主に 0 歳から 3 歳までの乳幼児の子育て支援を行ってきました。平成 25 年度の短期大学移転に伴い、場所を夙川学院中学・高等学校敷地内(西宮市神園町)に移設することにより、付属幼稚園や夙川学院高校生との交流がさらに密になりました。平成 26 年度には地域の利用者親子とともに開室 5 周年の記念講座を開催しており、地域に根ざした子育て支援の場として、年を重ねるごとに貴重な存在となっています。

平成 26 年度は開設日数 237 日、総利用者数 5,771 名、開室から平成 26 年度までの累計利用者数は 29,171 名となりました。平成 26 年度の内訳は利用児童数のべ 2,942 名(0 歳児 917 名、1 歳児 1,358 名、2

歳児 602 名、3 歳児 61 名、4 歳児 4 名)、利用保護者数のべ 2,829 名(父親 14 名、母親 2,775 名、その他祖父母・保育サポーター 40 名)。利用回数では新規 210 件、2 回目以降の利用が 2,598 件、高校生や社会人等の一般ボランティア 38 名の参加がありました。また、学内外の講師を招き、毎月定期的に講座を開き、歯科医による 0 歳からの口腔ケアや親子でのヨガ体験等、啓発的な内容やリフレッシュを促すテーマで多面的に子育てに話題を提供しています。平成 26 年度は新しい試みとして利用者の母親が講師を努める講座や心理学の継続講座を開催する等、発展的に地域の子育て世代を元気づける場となるよう取り組んでいます。



### (5) 研究活動支援

#### ■短期大学

◆文部科学省の競争的資金(科学研究費補助金)への応募・獲得

平成 26 年度は基盤研究(C)への応募が 2 件あり、1 件(「平安初期歌合の研究」)が交付内定(平成 27 年度～31 年度、3,300,000 円)を受けました。

#### ■高校・中学校・幼稚園

##### (1) 教育課程の充実

##### ■高校

◆普通科 II 類・特別進学コース

(文系(特進)/看護(特進))

選択科目を増やした 6 時間授業で余裕のある教育課程を実施し、補習や特別授業を実施しました。

#### ◆文系(特進)

弱点の補強や長期休暇中の特別授業を実施し学力の定着及び応用力を身につけさせました。

また、定期的に全国模試を受験させ早い段階からの大学入試対策を行いました。



#### ◆看護(特進)

看護系学校進学のための主要4教科に重点を置き長期休暇中の特別授業、小論文指導を実施いたしました。また看護や医療技術の体験、看護セミナーを通じ、看護のこころがまえや人命の尊厳を学習いたしました。看護医療全国模試の受験等学力に応じたきめ細かな進路指導を実施いたしました。



#### ◆スポーツ特進

専攻する競技の技術レベルを高め、部活動と学業の「文武両道」が実践できる環境です。



#### ◆普通科 児童教育進学コース

教育課程に保育技術Ⅰ(ピアノ)、保育技術Ⅱ(造形)、保育技術Ⅲ(リズム、体操)、発達と保育、保育自習を実施し、保育に関する知識並びに興味関心を高め、保育関連の進学実績を残しました。







#### ◆普通科 福祉コース

教育課程に社会福祉基礎、介護福祉基礎、コミュニケーション技術、生活支援技術、介護家庭、介護実習、こころとからだの理解等の専門教科を実施し、介護福祉士国家試験合格率 73%(全国平均 48%)を達成いたしました。



#### ◆普通科 I類・総合コース

標準的な教育課程を実施し、大学・短大・専門学校・就職などの進路選択にきめ細かく対応いたしました。



(修学旅行 北海道)

#### ◆美術科

1年次では素描I、造形基礎、デザイン基礎、西洋美術史等関連基礎科目を修得し、2年次で絵画立体コース及びデザインコースに分かれより専門的教科を実習し、3年次ではさらに、絵画、立体造形、グラフィックデザイン、プロダクトデザインといった高度な学習プログラムを実施いたしました。



#### ◆体育科

教育課程に体育理論、保健、スポーツⅠ(体操・陸上・水泳)、スポーツⅡ(球技)、スポーツⅢ(武道)、スポーツⅣ(ダンス基本から創作まで)、スポーツⅤ(スポーツ総合演習種目の基本的技術の修得)、野外活動(スキー実習)、スポーツ総合演習種目(3年間を通して週4時間)を実施し、国際的に活躍できるアスリートの育成を目指しました。

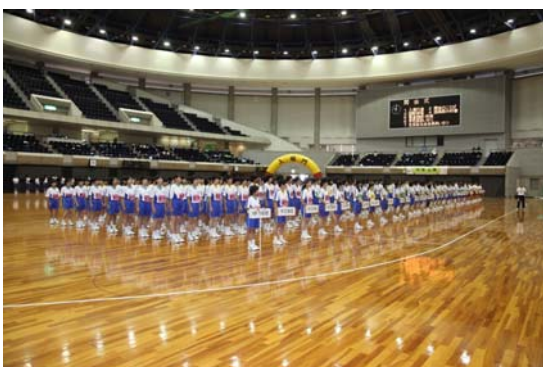


特に英語、国語、数学におきましては習熟度授業を実施し2クラスをさらに3クラスに分けて指導を行いました。

## ■高校・中学校

### ◆体育祭

体育祭は、平成24年度から神戸総合運動公園内にあるグリーンアリーナ神戸で行なっています。校庭での開放感はありませんがエアコンが利き、演技や競技は、快適に行なえました。また、観覧席が階段状となっているので、演技や競技がたいへん見やすく、保護者にも満足いただけたようです。



### ◆芸術鑑賞会

今年の芸術鑑賞会は、全校生徒が大阪四季劇場で「ライオンキング」を鑑賞しました。事前に劇団四季のスタッフを招いて劇場での鑑賞マナーを学びま

した。当日は、臨場感あふれるミュージカルをライブで鑑賞する体験により、情操教育を育む機会となりました。座学で学んだ鑑賞マナーを実践できる機会としても有効な鑑賞会とすることができました。



## ■幼稚園

### ◆各学年の目標

教育目標が幼稚園修了の間に達成できるように年齢による指導に重点をおいて各保育年別の目標をもって実践いたしました。様々な行事においては、当日の結果にとらわれるのではなく、過程を大切に保育することを心がけています。

#### <満三歳児組>

園生活を楽しみながら感情の安定を図り、身の自立を促しました。

#### <年少組>

遊びを通して基本的な生活習慣を身につけ、協力してみんなと遊べるようにしました。

#### <年中組>

集団生活の楽しさを体験する中で、きまりを守ろうとする態度や豊かな情操を育みました。

#### <年長組>

創造性を豊かにし自主的、協力的に活動すると共に、体育力の増進を図り何事にも意欲的に取り組む姿勢を育みました。

#### ◆園外保育

子どもの主体性を促す遊びと多様な発達に合わせた援助の充実を図り、心身共に健やかに成長できるように園外保育に積極的に取り組み、足腰の鍛錬や自然事象に触れる機会を多く持ちました。

<年少組> 甕岩神社(徒歩)

<年中組> 北山植物園(徒歩)

<年長組> 伊丹昆虫館、大阪キッズプラザ

(公共交通機関利用)

いちご狩り、六甲山人工スキー場そり遊び

(観光バス利用)

#### ◆運動会

各学年に合ったプログラムで楽しく取り組むことができました。年長組による鼓隊パレードは、他学年の憧れでもあり、保護者からも「感動した」との声をいただきました。

#### ◆宗教教育

週1回の礼拝を受けることで、「聞く力」を養うことができました。

感謝の気持ちを育て、「ありがとう」が言える子どもになりました。

クリスマス礼拝では、年長組は生誕劇でクリスマスの日の出来事を伝える役割を果たすことができました。

#### ◆「英語遊び」の導入

平成26年度も、年中・年長組では、英語教育研究所との連携により、週に一度「英語遊び」を導入しました。早くから英語に親しみ遊びながら学ぶことで自然と英語を身につけていくことや、異文化への興味関心を持てるようにしています。

#### ◆「預かり保育(にこちゃんルーム)」の実施

保護者のニーズに対応し、平成24年度より行っている預かり保育を25年度も、保育終了後から午後6時まで実施しました。学年の枠を超え、園庭遊びを中心に楽しく過ごすことをねらいとしています。平成26年4月から平成27年3月まで年間を通じて157日間実施し、延べ利用者数4,325名、1日あたり27.5名でした。

子どもたちが園生活に慣れた頃から利用者が増え、保護者からも「安心して預けられる」と言ってもらえ、子どもたちからも「楽しかった、もっと遊びたい」と言ってもらえました。

#### ◆付帯事業の実施

保護者・子どものニーズに応えると共に、付属幼稚園の特色をアピールするため、平成24年度より実施し、26年度も継続しました。毎月開催の一般講座として7講座、延べ受講人数は2,520名となりました。「子どもアトリエ」「楽しいバレエ」などバラエティに富んだ内容で、それぞれ参加した保護者・子どもたちは、大変楽しんで活動することができました。

### (2)国際交流事業

#### ■高校・中学校

#### ◆海外姉妹校

タウボ・インターメディアイト・スクール(ニュージーランド)での2週間のホームステイを実施いたしました。

### 3. 学生・生徒等の支援に係る事業

#### ■短期大学・高校・中学校・幼稚園

#### (1)課外活動支援の推進

#### ■短期大学

2年間という限られた修業年限の中で資格及び免許取得をするには授業が過密にならざるをえないため、課外活動を自主的に行なうことは難しい環境です。ただし、授業等で身につけた知識や技能を地域社会あるいは大学の魅力アップに貢献する目的をもつ活動及び団体に対しては、学生プロジェクト(学プロ)として助成金制度を設けています。

今年度は「エネルギー」が助成対象団体となりました。この団体は「地域の活力エネルギー ～畑づくりから食すまで～」をプロジェクト・テーマに掲げ、大学周辺の地域の方を中心に、児童教育学科という特色を活かし、一緒に学内に畑を作り収穫したものを食すなど、子どもの体験活動の場を提供するとともに、子ども・保護者・地域住民(主に高齢者)の世代間交

流を促進する活動を展開しました。

また、学生部主催でスポーツ的なイベントとして七夕飾りを行ったり、学友会主催では球技大会「バレーボール」を開催するなど、多数の学生が課外活動に参加し交流しました。

## (2) 進路指導(進学支援)の強化

### ■ 高校

#### ◆ 平成 26 年度進学実績

##### 【大学】合格者数

甲南女子大(6)、立命館大(4)、神戸親和女子大(4)、  
園田学園女子大(4)、関西学院大(3)、大手前大(3)、  
大阪体育大(3)、京都嵯峨芸術大(3)、  
京都精華大(3)、天理大(3)、甲南大(2)、  
神戸松蔭女子学院大(2)、武庫川女子大(2)、  
大阪青山(2)、大阪芸術大(2)、大阪樟蔭女子大(2)、  
梅花女子大(2)、同志社女子大(2)、  
京都造形芸術大(2)、東京女子体育大(2)、  
京都教育大(1)、鹿屋体育大(1)、  
アーカンソー州立(1)、関西大(1)、京都産業大(1)、  
龍谷大(1)、関西外国語大(1)、大阪国際大(1)、  
大阪産業大(1)、大阪成蹊大(1)、四条畷学園大(1)、  
太成学院大(1)、神戸医療福祉大(1)、  
神戸海星女子学院大(1)、神戸学院大(1)、  
神戸芸術工科大(1)、神戸女子大(1)、  
神戸常盤大(1)、兵庫大(1)

##### 【短期大学】合格者数

夙川学院短大(15)、大阪芸術大短大部(4)、  
大阪成蹊短大(3)、神戸女子短大(2)、  
龍谷大短大部(1)、関西外大短大部(1)、  
大手前短大(1)、園田学園女子短大(1)、  
武庫川女子短大(1)

##### 【専門学校】

大阪こども専門(3)、上田安子服飾専門(2)、  
大阪ハイテクノロジー専門(2)、兵庫栄養調理専門(2)、  
ECC コンピューター専門(1)、大阪医療歯科専門(1)、  
大阪社会体育専門(1)、大阪総合デザイン専門(1)、  
大阪ビューティアート専門(1)、大阪保健福祉専門(1)、

グラムール美容専門(1)、高津美容理容専門(1)、  
神戸製菓専門(1)、神戸ビューティー美容専門(1)、  
神戸総合医療専門(1)、神戸ヘルエール美容専門(1)、  
東京モード学園(1)、ハーベスト医療福祉専門(1)、  
洛和会京都厚生学校(1)、なにわ歯科衛生専門(1)、  
代々木アニメーション学院大阪本部長(1)

##### 【就職】内定者数

###### <企業>

株式会社にしけい(2)、株式会社アシックス(1)、  
インテリアナカ シエスタ(1)、  
ALSOK あさひ播磨株式会社(1)、  
株式会社 エヌ・エス・アイ(1)、亀山急送株式会社(1)、  
株式会社あみだ池大黒(1)、榊原和裁技術学院(1)、  
株式会社ホテルニューアワジ(1)、株式会社マルタニ(1)

###### <社会福祉法人>

甲山福祉センター(1)、明倫福祉会(1)

## (3) 多様な学生のニーズへの対応

### ■ 短期大学

#### ◆ 社会人入学生について

社会人入学生については平成 11 年度入学試験から「社会人特別入学試験」を導入し、社会人の受け入れを行っています。入学後の支援として「社会人特別奨学金制度(支給額 30 万円)」がありますが、平成 26 年度は対象者がいませんでした。

#### ◆ 支給奨学金制度について

本学支給奨学金(経済支援、成績優秀者)、後援会支給奨学金があります。いまだに景気の好転がみられない中、困窮度の高い学生がおり、それに反映された形で応募者も増え続けています。平成 26 年度は成績優秀者 3 名(各 10 万円)、経済支援 5 名(25 万円)、後援会 3 名(各 20 万円)を支給しました。

## (4) クラブ活動の記録

### ■ 短期大学

短期大学におけるクラブ活動は、2年間という短期間であり、また、実習や授業の過密さから継続的に行うことが困難です。しかしながら、ポートアイランド

キャンパス移転後は学友会活動を神戸夙川学院大学とともに取り組み、課外活動の運営も行いました。そのため、神戸夙川学院大学の持つすべての課外活動に短大生も同等の資格で入部できるようになっています。課外活動団体は以下の通りです。

	団体名	種目・ジャンル
重点支援団体	吹奏楽部	吹奏楽
特別団体	留学生会	国際交流
体育系公認団体	夙川 showers	軟式野球
	ハンドボール倶楽部	ハンドボール
	Free Style	バスケットボール
	バドミントンサークル	バドミントン
	FRISK	ソフトボール
	バレーボールサークル	バレーボール
体育系任意団体	神戸 FUTURE !!	キンボール
	AZ	ダンス
	テニスサークル	硬式・軟式テニス
	KSGU TT	卓球
	FIESTA	フットサル
文化系公認団体	前田 Family	音楽
文化系任意団体	真選組	イベント・旅行・ホラテイ
	lespoir	視聴覚文化
	World Advance	旅行
	放送サークル	放送

## ■高校

### ◆兵庫県高等学校総合体育大会

学校対抗総合得点順位において、  
47年連続48回目の総合優勝を成し遂げました。

### ◆バレーボール部

近畿高等学校男女優勝大会 出場  
兵庫県高等学校総合体育大会 第3位  
兵庫県高等学校新人大会 第3位  
全国高等学校選手権大会県予選 第3位

### ◆テニス部

全国選抜高校テニス大会 出場  
全国選抜高校テニス大会近畿大会 第3位  
近畿高等学校テニス大会  
シングルス・ダブルス 出場  
兵庫県高等学校総合体育大会  
団体 第3位・シングルス ベスト16  
ダブルス ベスト8  
兵庫県高等学校新人大会 団体 第2位

シングルス ベスト8・ダブルス ベスト4  
近畿私学大会 団体 第4位

兵庫県春季ジュニアテニス選手権大会  
シングルス ベスト16・ダブルス ベスト8

兵庫県夏季ジュニアテニス選手権大会  
シングルス ベスト16・ダブルス 第3位

### ◆バドミントン部

全国高等学校総合体育大会 シングルス 出場  
近畿高等学校選手権大会 ダブルス 優勝  
兵庫県高等学校総合体育大会 団体 第2位  
シングルス 第3位  
兵庫県高等学校新人大会 団体 第2位  
ダブルス 第2位・シングルス 優勝

### ◆ハンドボール部

全国高等学校総合体育大会 出場  
近畿高等学校選手権大会 第2位  
近畿高等学校新人大会 出場  
兵庫県高等学校総合体育大会 優勝  
兵庫県高等学校新人大会 第2位

### ◆卓球部

全国高等学校総合体育大会 出場  
全国高等学校選抜大会 出場  
近畿高等学校選手権大会 団体 第3位  
シングルス・ダブルス 出場  
兵庫県高等学校総合体育大会 団体 第2位  
シングルス ベスト8・ダブルス 第8位

### ◆体操競技部

全国高等学校総合体育大会 個人 第47位  
東京国体 団体 第8位  
近畿高等学校選手権大会 団体 第4位  
兵庫県高等学校総合体育大会 団体 第2位  
跳馬 第2・3位・平均台 第2位・個人 第5位  
兵庫県高等学校新人大会 団体 第2位  
跳馬 第2位・平均台 第2位・個人 第6位  
全国高等学校選抜大会 個人 第3位

### ◆バスケットボール部

ウインターカップ県予選 出場

### ◆陸上競技部

- 全国高等学校総合体育大会  
走り幅跳び 入賞・4×100mリレー 準決勝進出  
4×400mリレー 準決勝進出・400m 準決勝進出  
全日本ユース陸上選手権大会  
走り幅跳び 第2位・4×100mリレー 決勝進出  
近畿高等学校総合体育大会 6種目 入賞  
兵庫県高等学校総合体育大会 総合優勝  
兵庫県高校ユース選手権大会 総合優勝
- ◆水泳部  
近畿高等学校選手権大会 リレー・個人 出場  
兵庫県高等学校総合体育大会 総合 第5位
- ◆空手道部  
全日本空手道選手権大会 女子団体組手 第5位  
全国高等学校総合体育大会  
団体組手 第5位・個人組手 第2位  
全国高等学校選抜大会  
団体形 第5位・団体組手 優勝  
近畿高等学校選手権大会 団体組手 優勝  
団体形 第3位・個人組手 優勝・第3位  
兵庫県高等学校総合体育大会  
団体組手・形 優勝  
個人組手 優勝・個人形 優勝・第2位  
兵庫県高等学校新人大会 団体組手・形 優勝  
個人組手・形 優勝・第2位・第3位
- ◆剣道部  
兵庫県高等学校総合体育大会 個人 出場
- ◆アーチェリー部  
兵庫県民体育大会 個人 出場
- ◆柔道部  
全国高等学校総合体育大会 団体 第9位  
個人 48kg 優勝・52kg 第9位  
63kg・70kg・78kg 出場  
全国高等学校選手権大会 団体 第9位  
個人 52kg 優勝・63kg 第9位  
全日本カデ柔道体重別選手権大会 52kg 第2位  
ドイツカデ柔道選手権大会 57kg 出場  
世界カデ柔道選手権大会 57kg 第2位  
近畿高等学校新人大会 団体 第5位
- 個人 48kg 優勝・78kg 第2位・63kg 第3位  
全日本ジュニア柔道体重別選手権大会  
48kg 優勝・52kg 第2位・63kg 優勝  
講道館杯全日本柔道体重別選手権大会  
48kg 優勝・52kg 第2位・63kg 優勝  
兵庫県高等学校総合体育大会 団体 優勝  
個人全階級 優勝  
兵庫県高等学校新人大会 団体 優勝  
個人 ・48kg ・52kg ・63kg ・78kg 優勝
- ◆茶道部  
文化祭にてお茶席を設け、お点前を披露。  
毎週水曜日お点前のお稽古。
- ◆クッキング部  
文化祭参加(ケーキ・クッキー・飲み物)  
手芸・お菓子作り・料理・ペーパークラフトなど。
- ◆美術部  
美大受験対策。  
鉛筆デッサン・色彩構成・立体造形などの課題。
- ◆演劇部  
週3回練習。創作脚本作成。文化祭にて上演。  
阪神支部大会・春期発表会・夏期講習会参加。  
平成25・26年度阪神支部大会  
2年連続優良賞受賞。
- ◆ESS部  
外国人講師による英会話、英検等の指導。  
阪神 ESS ユニオン主催シナリオリーディング  
コンテスト、スピーチコンテスト出場。
- ◆吹奏楽部  
学校行事にて演奏。  
西宮市吹奏楽連盟定期演奏会・西阪神吹奏楽コン  
クール  
西宮市高等学校吹奏楽連盟定期演奏会出場。
- ◆ダンス部  
文化祭にてステージ発表。
- ◆フォークソング部  
文化祭の記念館ステージ出演  
文化祭のチャペルでのライブ出演  
クリスマス礼拝の際に、スペシャルステージ出演

#### ◆軽音楽部

新入生歓迎ライブ・文化祭にてステージ発表。

ソニックハイスクールライブ出演。

神戸夙川学院大学大学祭出演。

#### ◆ボランティア活動部

福祉施設・老人ホーム関係ボランティア(特別養護老人ホームなど)

学校でのボランティア活動(礼拝・エコキャップ運動など)

募金活動ボランティア(あしなが学生基金・24時間TVなど)

地域、敬老会でのボランティア(西宮まつり、夏祭りなど)

#### ◆漫研部(普通科)

文化祭にて作品発表・展示。部誌・作品集発行(不定期)。

絵画展鑑賞(校外活動)。

#### ◆漫研部(美術科)

文化祭にて作品発表。部誌の発行。

### ■中学

#### ◆柔道部

全国中学校総合体育大会

個人 48kg 第5位・52kg 第2位

近畿中学校総合体育大会 団体 第3位

個人 48kg・52kg 優勝

兵庫県中学校総合体育大会 団体 優勝

個人 48kg・52kg・63kg 優勝

兵庫県中学校新人大会 団体 第2位

個人 48kg・52kg・63kg 優勝

#### ◆空手道部

全国中学生空手道選手権大会 団体形 出場

団体組手 出場

全国中学生空手道選手権県予選

団体形 第3位・個人組手 優勝

近畿中学校空手道選抜大会 団体形 準優勝

全国中学生空手道選抜大会 個人形 第5位

#### ◆体操競技部

近畿中学校体操競技選手権大会 団体 第6位

兵庫県中学校総合体育大会 団体 第2位

#### ◆テニス部

兵庫県ウインタージュニア 16才以下 ベスト16

兵庫県春季ジュニア 16才以下 ベスト4

#### ◆バレーボール部

兵庫県中学校総合体育大会 出場

兵庫県中学校選抜優勝大会 第8位

兵庫県中学校新人大会 第3位

#### ◆水泳部

阪神中学校総合体育大会 個人 出場

#### ◆アーチェリー部

高校生と一緒に活動

#### ◆ソフトボール部

西宮市民体育大会

武庫女・浜甲子園と3校合同で出場

近畿私立中学校選手権大会

神戸山手と合同で出場

#### ◆バドミントン部

兵庫県中学校総合体育大会 シングルス 第3位

## 4. その他の主要事業

### (1) 地域との共生

#### ■短期大学

短期大学の長い歴史の中で西宮とは根強い交流があり、移転後も密接に繋がっています。

地域主催のイベント、とりわけ夏の「サマーフェスティバル・イン・越木岩」には毎年参加しており、平成26年にもバザール部門に学生グループ「エネルギー」が中心となり、フライドポテトやポップコーンの模擬店を出店しました。

また、大学祭では、子ども向けのショーの誘致や子ども広場を設けるなどして、神戸市中央区みなとじま地区の方々にも参加いただき、盛況なイベントとなりました。

12月にはみなとじま地区の児童館で行われたクリスマス会への出演依頼を受け、「エネルギー」のメンバーがハンドベル演奏を披露しました。

今後もこのような活動を増やし、西宮と同様、地域

との共生を活発にしたいと考えています。



## (2) その他

### ■短期大学

#### ◆教員免許更新講習講座開催

本講座は卒業生だけでなく現職教員を対象に開講し、講座内容も好評で例年定員を上回る申し込みがあります。平成26年度は7～9月まで、土日を含めて15講座を開講し、のべ347名の受講者があり、受講後のアンケートでも、満足したとの声を大変多く聞くことができました。

なお、平成27年度は16講座開講する予定です。  
(平成27年4月文部科学省認定済)



#### ◆認定こども園法改正に伴う特例制度履修科目講座開催

認定こども園法改正に伴い創設された新たな「保連携型認定こども園」の職員である「保育教諭」については、「幼稚園教諭免許状」と「保育士資格」の両方の免許・資格を有することが原則となります。認定こども園法改正に伴い、施行後5年間の経過措置

期間に、保育所または幼稚園における勤務経験(3年以上かつ4,320時間以上)を有することにより、もう一方の免許・資格取得に必要な単位数等を軽減する特例制度が設けられました。

本学では、本特例制度に対応する幼稚園教諭免許状保持者の保育士資格取得のために、平成26年度から実施することになりました。

平成26年度は前期(4月～7月)、夏期集中(8月)、後期(10月～2月)の3期講座を開講し、のべ563名の受講がありました。

なお、平成27年度は3期講座開講するとともに通信制も導入し開講する予定です。

(平成27年4月近畿厚生局届出済み)



## Ⅱ. 法人の概要

### 1. 設置校・学部・学科等

設置する学校	開設年度	学部・学科等	摘要
神戸夙川学院大学	平成19年度	観光文化学部 観光文化学科	
	平成25年度	観光文化学部 観光マネジメント学科	平成26年10月廃止
夙川学院短期大学	昭和40年度	児童教育学科	
夙川学院高等学校	昭和23年度	全日制(普通科) (美術科) (体育科) (国際教養科)	
夙川学院中学校	昭和23年度		
夙川学院短期大学 附属幼稚園	昭和42年度		

## 2. 学院の入学者数・在籍者数の状況

(平成26年5月1日現在)

学 校	学部・学科等	入学定員 (高・中・幼は 募集定員)	入学者数	収容定員	在籍者数
神戸夙川学院大学	観光文化学部観光文化学科	220	157	1,040	719
	観光文化学部観光マネジメント学科	50	0	100	2
大 学 合 計		270	157	1,140	721
夙川学院短期大学	児童教育学科	100	129	200	233
短期大学合計		100	129	200	233
夙川学院高等学校		270	168	2,340	451
高等学校合計		270	168	2,340	451
夙川学院中学校		60	14	360	57
中学校合計		60	14	360	57
夙川学院短期大学附属幼稚園		60	63	180	184
幼稚園合計		60	63	180	184
法 人 合 計		760	531	4,220	1,646

### 3. 教職員数

(平成26年5月1日現在)

#### (1) 大学教員数 (専任教員)

学部等	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
観光文化学科	12	10	6	0	0	28
観光マネジメント学科	7	0	0	0	0	7
合計	19	10	6	0	0	35

#### (2) 短期大学教員数 (専任教員)

学科等	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
児童教育学科	5	4	3	0	0	12
合計	5	4	3	0	0	12

#### (3) 中学高等学校教員数 (専任教員)

区分	教諭
中学校	5
高等学校	32
合計	37

#### (4) 幼稚園教員数 (専任教員)

区分	教諭
幼稚園	9

#### (5) 職員数 (専任職員)

区分	職員
大学	10
短期大学	12
中学高等学校	9
幼稚園	1
法人	11
合計	43

#### 4. 役員・評議員の概要

##### (1) 評議員の概要

(平成26年5月1日現在)  
 評議員定数 16～25名  
 評議員現員 17名

氏名	主な現職等
岡崎 公典	短期大学教授
大崎 俊人	中学高等学校校長
関根 慎二	中学高等学校事務長
増谷 昇	理事、法人事務局長
松井 道男	理事、大学学長、短期大学学長
北崎 智弘	理事、法人総務部長
生島 由加利	元高等学校同窓会会長
占部 眞清	高等学校同窓会会長
田中 麻紀子	短期大学附属幼稚園主任
松伏 純子	短期大学同窓会会長
大前 都貴子	短期大学同窓会副会長
位田 隆久	岡山理科大学附属中学校校長
大西 寛文	立命館大学大学院経営管理研究科教授
奥野 耕三	理事、元財団法人神戸港埠頭公社勤務
横本 悦男	元神戸市社会福祉協議会課長
蔭山 幸男	理事、日本公認会計士協会本部理事
滝井 繁男	理事、弁護士

##### 平成26年5月1日以降の評議員の異動

井上 千晶	平成26年5月7日 就任
小林 伸雄	平成26年5月7日 就任
位田 隆久	平成26年6月17日 退任
生島 由加利	平成26年7月18日 退任
田中 真奈美	平成26年7月19日 就任
関根 慎二	平成26年12月31日 退任
植松 幹雄	平成27年1月1日 就任
	平成27年3月26日 退任
	平成27年3月28日 就任
滝井 繁男	平成27年2月28日 退任
大崎 俊人	平成27年3月26日 退任
	平成27年3月28日 就任
松井 道男	平成27年3月31日 退任
横本 悦男	平成27年3月31日 退任
樋口 進	平成27年4月1日 就任
山崎 英穂	平成27年4月30日 就任

(2) 役員概要

(平成26年5月1日現在)  
 理事定数 7~12名 監事定数 2名  
 理事現員 9名 監事現員 2名

区分	氏名		主な現職等
理事長	藤田 幸男	常 勤	院長
理事	大崎 俊人	常 勤	中学高等学校校長
理事	松井 道男	常 勤	大学学長、短期大学学長
理事	北崎 智弘	常 勤	法人総務部長
理事	増谷 昇	常 勤	法人事務局長
理事	奥野 耕三	非常勤	元財団法人神戸港埠頭公社勤務
理事	蔭山 幸男	非常勤	日本公認会計士協会本部理事
理事	滝井 繁男	非常勤	弁護士
理事	前原 金一	非常勤	経済同友会副代表幹事・専務理事
監事	金澤 敦夫	非常勤	学校法人湊川相野学園短大事務室長
監事	山下 章太	非常勤	かえでキャピタルマネジメント株式会社代表取締役

平成26年5月1日以降の理事の異動

理事	前原 金一	非常勤	平成26年5月31日 退任
理事	滝井 繁男	非常勤	平成27年2月28日 退任
理事	松井 道男	常 勤	平成27年3月31日 退任
理事	樋口 進	常 勤	平成27年4月1日 就任